



人工知能（AI）を中心とする技術革新により、ビジネス環境は激変した。企業が勝ち残っていくには、価値創造とスピード経営が不可欠だ。成長を加速させる有効な戦略は「アライア

ンス」にある。これは「事業提携」や「企業連合」を意味する英語だ。異なる立場にある企業同士が、持続的成長と利益を上げるために協力し合う経営スタイルである。相互補完的なスタートアップ同士や

インターウォーズ社長
吉井 信隆



1979年リクルート（現リクルートホールディングス）入社。首都圏営業部長などを経て95年にインキュベーション事業のインターウォーズを設立、社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

大企業と連携する体制だ。断ずることで優位に立つ。それぞれの強みによって弱と。第4がビジネスの川下いところを補完し、限られの企業と提携することで、人、技術、資金、情報を売り上げ、利益を拡大する生かし、互いの目的を実現すること。

ける構想だ。トヨタ自動車は、モビリティサービスに高税率を課している。また、事業を確立するため、川上た車の購入権を発行し、公に存在する異業種のソフト開入札しないと車が購入できない。プリウス1台当たり15万4千円（約1260万円）と驚く値段だ。一方で、モバイルでも数分で呼べるモビリティサービスを提供するモビリティカンパニーにモデルチェ

成長加速する事業提携

4つの目的と方向がある。事業との提携が目立つようになった。昨秋、トヨタ自動車とソフトバンクグループが、モビリティサービス事業で戦略的提携を発すること。第2が同業と同盟を組むことで事業規模とシェアを拡大させ、規模によるメリットを享受すること。第3がビジネスの川上にある事業と提携し、競合を遮

「アライアンスには、次の4つの目的と方向がある。第1が関連するサービスを扱う周辺産業の事業と提携すること。第2が同業と同盟を組むことで事業規模とシェアを拡大させ、規模によるメリットを享受すること。第3がビジネスの川上にある事業と提携し、競合を遮

「アライアンスには、次の4つの目的と方向がある。第1が関連するサービスを扱う周辺産業の事業と提携すること。第2が同業と同盟を組むことで事業規模とシェアを拡大させ、規模によるメリットを享受すること。第3がビジネスの川上にある事業と提携し、競合を遮